

取扱いの趣旨

HMG-CoA還元酵素阻害薬（スタチン製剤）は、効力や脂溶性・水溶性等の違いはあるものの、薬理作用は同一であることから、併用投与は原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】

《令和6年9月30日》

297 HMG-CoA還元酵素阻害薬（スタチン製剤）2剤の併用投与について

○ 取扱い

HMG-CoA還元酵素阻害薬（スタチン製剤）2剤の併用投与は、原則として認められない。

○ 取扱いを作成した根拠等

HMG-CoA還元酵素阻害薬（スタチン製剤）は、コレステロールの合成に必要なヒドロキシメチルグルタリルCoA還元酵素を阻害して、血液中のコレステロールを減少させ、脂質異常症の第一選択薬とされている。

プラバスタチン（メバロチン等）、シンバスタチン（リポバス等）、フルバスタチン（ローコール等）、ロスバスタチン（クレストール等）、ピタバスタチン（リバロ等）、アトルバスタチン（リピトール等）があり、これらは効力や脂溶性・水溶性等の違いはあるものの、薬理作用は同一であり、通常、患者の治療目標等にあわせて適切な一剤が選択される。

以上のことから、HMG-CoA還元酵素阻害薬（スタチン製剤）2剤の併用投与は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ(該当レセプトの審査結果)

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

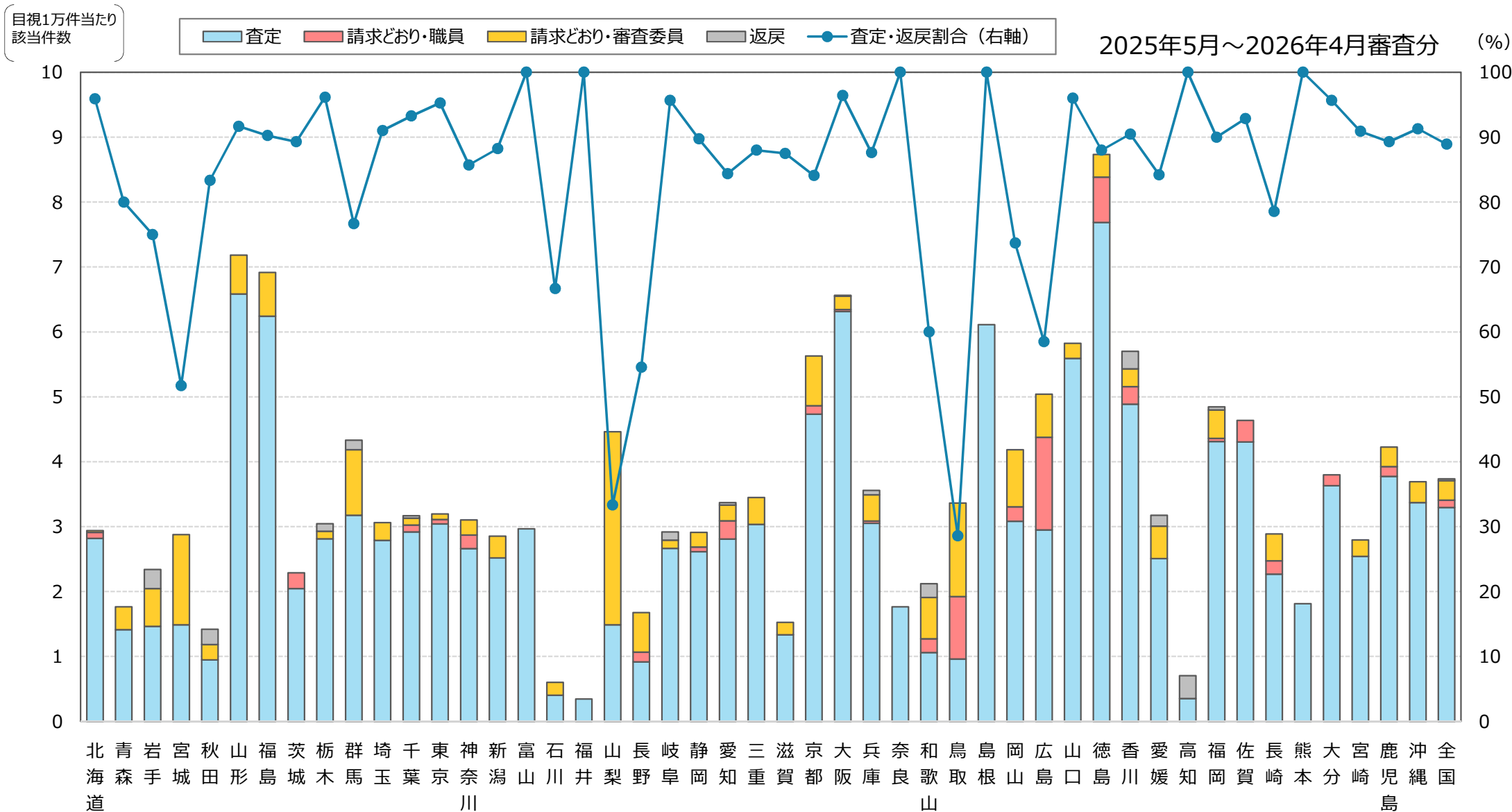
査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 88.92%
- 検証対象都道府県 13

検証観点	都道府県	備考
査定・返戻割合が低い	鳥取、山梨、宮城、長野、広島、和歌山、岡山、群馬、長崎、京都、愛媛、兵庫、徳島	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	広島、鳥取、徳島、岡山、和歌山、長崎、長野、京都、兵庫	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	山梨、鳥取、宮城、群馬、岡山、京都、広島、和歌山、長野、愛媛、長崎、兵庫、徳島	//

該当件数（全国）	【条件】	2,130件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	1,894件
検証を必要とする審査	請求どおり	236件



該当件数	98	10	8	29	6	24	41	28	26	30	78	89	232	119	17	10	3	1	15	11	23	39	96	25	8	88	418	105	13	10	7	15	38	53	25	25	21	19	2	100	14	14	12	23	11	28	23	2,130
請求どおり件数	4	2	2	14	1	2	4	3	1	7	7	6	11	17	2	0	1	0	10	5	1	4	15	3	1	14	15	13	0	4	5	0	10	22	1	3	2	3	0	10	1	3	0	1	1	3	2	236

【該当件数】取扱いの趣旨に該当したレセプト件数